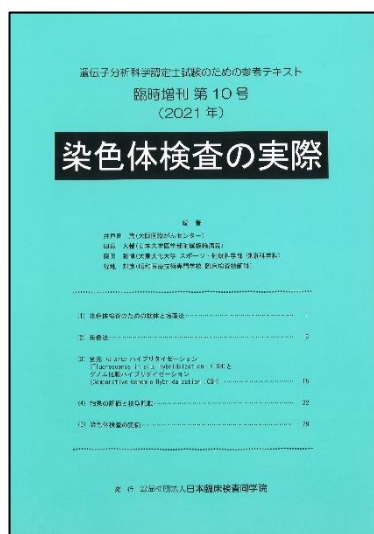


日本臨床検査同学院「通信」 臨時増刊 第10号 (2021年)

染色体検査テキスト (染色体検査の実際)



編著：井戸田 篤 (大阪国際がんセンター)

田辺 大輔 (日本大学医学部附属板橋病院)

藤田 和博 (大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科)

福地 邦彦 (昭和医療技術専門学校 臨床検査技師科)

2021年12月、A4判、本文33頁、価格¥1,870 (税込)

発行・販売 公益社団法人 日本臨床検査同学院

- ・ 遺伝子分析科学認定士資格認定試験にも役立つ参考テキスト
- ・ 染色体検査を基礎から学びたい方へ

この度、染色体検査を行う上で、検査室の設備・備品、および使用法について教科書や使用説明書には記載されないような実践的な詳細をまとめることにした。

日本臨床検査同学院では、遺伝子・染色体検査の質の確保と向上を目的とし、遺伝子分析科学認定士試験 第1回初級は2007年、第1回一級は2021年から継続して行っている。これまでの受験者から、染色体検査の所謂標準法を示して欲しいとの声があった。これに答え、日本臨床検査同学院「通信」で4回にわたり現在の染色体検査の実施に際し、最も広く利用されている方法の各段階について臨場感をもって解説した。これらをまとめ、さらに実例を巻末に付したものを上梓する。これから染色体検査を始める者にとっては基礎学習になり、また経験者にとっては日々の業務の再確認としていただきたい。

遺伝子分析科学認定士実行委員会 教本委員会 福地 邦彦 [巻頭言から抜粋]

【内容】

(1) 染色体検査のための検体と培養法

- I. 培養準備
- II. 細胞培養
- III. 標本の作製法

(2) 染色法

- I. Q 分染法
- II. G 分染法
- III. R 分染法
 - 【R-band by heating using Giemsa (RHG) 法：
加熱処理後、ギムザ染色】
 - 【R-band by BrdU using Giemsa (RBG) 法：
BrdU 標識後、ギムザ染色】
- IV. C 分染法

V. NOR 染色法

- VI. 姉妹染色分体分染法
- VII. 高精度分染法

(3) 蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

- I. FISH 法
- II. CGH 法

(4) 結果の評価と核型記載

- I. 染色体検査結果の評価
- II. 核型の記載方法

(5) 染色体検査の実例

- I. G 分染法の実例
- II. FISH の実例

【購入申込】

書店での取扱いはありませんので、ホームページから直接お申込みください。

公益社団法人 日本臨床検査同学院 <https://clmj.jp/>